

保護者様

令和4年度全国学力・学習状況調査の実施結果について（概要）

基山町立基山小学校
校長 福山 信代

今年の4月19日(火)に全国の国・公・私立学校の小学校第6学年と中学校第3学年を対象に、「令和4年度全国学力・学習状況調査」が実施されました。今年度分の調査結果の概要をまとめましたのでお知らせします。

なお、以下に示す内容は学力の特定の一部分であること、また、学校における教育活動の一側面であることを御理解くださいますようお願いいたします。

1. 調査の目的

- ◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- ◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- ◇そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容**【生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査】**

学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面、新型コロナウイルス感染症等に関する調査

【教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）】

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な問題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等

3. 生活習慣や学習環境等に関する調査結果の概要

(1) 特に良い傾向が見られる主な項目

- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う」 100.0% (全国平均 96.8%)
 - ・「人が困っているときは、進んで助けている」 97.0% (全国平均 88.9%)
 - ・「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」 93.0% (全国平均 89.4%)
- 他にも、「毎日、同じくらいの時刻に起きて（寝て）いる」「人の役に立つ人間になりたいと思う」「自分には良いところがあると思う」等全国平均と比較して、良い傾向がみられる項目がありました。

(2) 課題が見られる主な項目

- ・「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」 78.8% (全国平均 80.1%)
 - ・「新聞を読んでいますか」 14.1% (全国平均 13.8%)
- 他にも、「地域や社会をよくするために何をすべきかを考えることがある」「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っている」等、全国平均と比較して課題がみられる項目もありました。

【生活習慣や学習環境等に関する調査の結果より】

起床時刻や就寝時刻など、ご家庭で生活のリズムを整えてくださっているおかげで、子供たちの心身も落ち着いているようです。学校でもこれまでに、学びの土台である「自己肯定感や自己有用感」を高め、「安心・安全な環境」をつくり、「基本的な生活習慣（す・み・そ・あ・じ）」を定着させる指導を行ってきました。このことが、「いじめを許さない気持ち」や「人に対する優しさ」、「やり遂げようとする意欲」に表れています。

一方で、コロナ禍の影響とも思われますが、身の回りの社会との関わり方に課題があることが分かりました。そこで今後も、元気なあいさつや返事、正しい言葉遣い（ぼかぼか言葉、ぼかぼかアクション）など、友達や地域の人々と上手に関わるための指導を続けていきます。また、授業中には、友達との話し合いを通して自分の考えを深めたり広げたりする場面を、引き続き設けていきたいと考えています。

4. 教科（領域）ごとの調査結果の概要

教科に関する調査の結果〔正答数〕

	国語〔14問〕	算数〔16問〕	理科〔17問〕
基山小学校	10.0問	11.1問	11.8問
佐賀県	9.0問	9.9問	10.5問
全国	9.2問	10.1問	10.8問

(1) 国語の調査結果概要について

- ・全体については、県・全国平均より高い。
- ・無解答率は、全問題において県・全国平均よりも低い。
- ・言葉の特徴や使い方に関する問題は、正答率が高い。
- ・条件に合わせて、自分の考えを文章で表現する問題に課題が見られる。

(2) 算数の調査結果概要について

- ・全体については、県・全国平均より高い。
- ・無解答率は、全問題において県・全国平均よりも低い。
- ・図形を構成する要素に着目し、図形の意味や性質について問う問題の正答率が高い。
- ・目的に応じて、数の見積もり方を考える問題に課題が見られる。
- ・文章問題の場面を解釈し、例文を基に立式する理由を文章で説明する問題に課題が見られる。

(3) 理科の調査結果概要について

- ・全体については、県・全国平均より高い。
- ・実験の仕方や昆虫の体のつくり、水蒸気の性質など、基本的な内容を問う問題の正答率が高い。
- ・「日光は直進する」という性質の理解を問う問題の正答率が低い。
- ・実験の結果を分析し、自分の考えを文章で表現する問題で課題が見られる。

【教科の調査結果より】

6年生の児童は、日頃から落ち着いて学習に取り組み、課題に対して誠実に向き合うことができている。このことが、全教科、県・全国平均を上回る結果につながりました。一方で、「記述力の向上」という全教科共通の課題が見つかりました。今後も引き続き授業改善を進めていくとともに、お子様の実態を家庭と共有しながら、励ましと支援を継続していきたいと思っております。

5. 基山小学校の学力向上の取組方針

- 児童が自分の考えをもち、主体的に学ぶことができるよう、自己肯定感が高まる声掛けや、児童のがんばりを認める学習評価を行い、「自ら学ぶ児童」を育成する学習指導を推進します。
- 一人一台端末等のICT機器を活用した学力向上のための取組を推進します。
- 自分の考えや意見等を、言葉で書き表す機会を増やすことで、記述力の向上に努めます。

6. 保護者の皆様へ（ご家庭での協力をお願い）

右のグラフは、「1日にするゲーム（テレビゲーム、スマートフォンなどを含む）の時間」と「各教科の正答率」を関連させたものです。ご覧のようにゲームの時間が短い子供の正答率が高くなっています。この結果には様々な要因が考えられますが、その一つに「脳疲労」が挙げられます。長時間のゲームは脳を過度に疲れさせ、その結果、集中力や記憶力が低下すると言われていています。「勉強しているのに、成果が出ない」という場合、この「脳疲労」によりお子様の実力が充分発揮できていないと考えることができます。

学校でも、ICT機器との上手な関係づくりのために「連続で長時間使わない」「疲れを感じたら休憩をする」といった指導をしています。お子様の日頃のがんばりを無駄にしないためにも、ご家庭で、脳を酷使しすぎない生活習慣について、お子様と一緒に考えてみられてはいかがでしょうか。

1日のゲーム時間と各教科の正答率

